

県中総体 ～ 青春の輝き ～

7月21日(日)～23日(火)にかけて、長崎県中学校総合体育大会が県内各地で開催されました。本校からは、柔道・剣道・陸上の3競技に出場しました。うだるような暑さの中、どの競技の選手もよく頑張りました。圧巻だったのは、柔道個人戦に出場した川村多運くん(男子50kg以下級)と松本簾央くん(男子73kg以下級)。見事、優勝を勝ち取り、九州大会(宮崎県)・全国大会(長野県)の切符を手に入れました。二人の姿に大きな感動をいただきました。



3つの競技全てを観戦しました。どの競技でも勝って泣き、負けて泣く各地区代表選手をたくさん見かけました。チームや自己の目標に向けて、厳しい練習に耐え、ひたすらに努力してきたのだろうと推察しました。教師生活の中で幾度も見てきた光景ですが、とてもかっこよくて美しい中学生の姿です。青春時代に目標達成に向けて、苦しい思いをしたり、挫折を味わったりすることはきっと彼らの人生に彩りを与え、厚みを持たせます。耐性のない子供が増えてきているとよく言われます。しかし、私が目にした選手たちは、これからの人生で出会う大きな困難にも屈せず、乗り越えていくのでしょうか。

海辺の教室 in 五島・岐宿



7月31日(水)、九州大学が主催する「海辺の教室 in 五島・岐宿」が開催されました。学習のテーマは「岐宿火山爆発! 溶岩があった証拠を探せ～魚津ヶ崎も八朔鼻も大昔は熱々の溶岩だった?」です。講師は下司信夫教授と清野聡子准教授。まずは魚津ヶ崎でフィルドワークを行いました。何度も見たことがあるはずなのに魚津ヶ崎の海岸や、そこから見える島の岩肌の色が違うことに気がきます。次に、八朔鼻に移動し、清掃活動を行います。大量のゴミと格闘です。そのような中、清野准教授が海岸に咲いていた「浜木綿(はまゆう)」のことについてお話をされました。「地域の皆さんが清掃活動を繰り返し行うことで、八朔鼻は以前よりもきれいになりました。お陰で浜木綿の花が増えています。」この日も暑い日でしたが、爽やかで涼しい気持ちになりました。その後、石や岩の中の鉱石探しを楽しみました。最後は離島開発センターで下司教授からの講義でした。下司教授の見解だと、太古の昔、楠原(現岐宿小中学校)あたりで噴火があり、その溶岩が緩やかに流れて、岐宿の地をつくりあげたということでした。山内地区は湖になっていた可能性があるとお話しされていました。

夏休みにもかかわらず、生徒が16名、職員が5名も参加してくれました。このような学びの機会を子供たちにもっと提供したいと改めて思いました。また、当日は五島自然塾の永治さんをはじめ、五島列島ジオパークのガイドの皆さん、岐宿まちづくり協議会のみなさん、市内の小学校の先生、中学校の理科の先生と学びを求める大人の姿がありました。本来、学ぶことは楽しいことです。不思議に思うことに興味を持ったり、当たり前だと思っていたことに新しい発見があったり。学校だけでなく、学びの種は至るところに転がっています。その種に自分で気付いて、拾うことのできる子供を育てたいですね。夏休みも後半戦です。私はこれから五島の歴史や自然にかかわる本をじっくり読みたいと思います。生徒の皆さんは何を頑張りますか? 充実した夏休みになるように、大いに遊んで大いに学んでほしいと思います!

